

# 和歌山県陸軍墓地のその後

吉田 文治 陸自63

数年前、全国陸軍墓地紹介シリーズで和歌山県陸軍墓地について執筆した。2箇所あり、歩兵第61聯隊のそれは、和歌山仏教協会の力添えで、立派な忠霊塔が建てられ、春、盆、秋の法要等、遺族会、県知事、市長、国会議員らの参列のもと挙行されている。

これ対し、由良要塞深山重砲兵聯隊のそれは、和歌山市森林公園内にあり、参拝する人もなく、雑木の中に埋もれている状況に唖然とした。あの時の文章の最後に「偕行社の一員として恥ずかしいことであり、今後の課題である。」と書いたと記憶している。

以来、久堀和歌山偕行会長（陸士56）も常に心中に留めおかれていた。

和歌山市の管理下にあることから、助さん、格さん（奥田副会長、副島事務局長）を従えて、市役所へ出向き、とり敢えず市会議員に現状を説明したところ、快く相談に乗ってもらえ、早速市議有志により、現地視察を、その後「深山会」なるものを発足させ、随時清掃、桜の植樹等を繰り返し、見違えるような光景となってきた。

去る5月20日、第1回目の慰霊法要を開催するに至り、市議有志、信太山第37普通科連隊、和歌山地方協力本部、隊友会等の参列を得て、一帯に線香の香が漂い、般若心経等の読経が木霊する中、厳肅裡に挙行された。

久堀会長も御子息に抱えられ参列（一番焼香）され喜んでおられた。また会長は、会誌「偕行」の愛読者でもあることから、この事を記事にして掲載されれば、一層喜んでもらえることと考えた次第である。

尚、筆者も毎年陸軍記念日には個人で参拝し、幕前で詩吟や武道演武等を奉納しており、今後も身体が動く限り続ける所存である。

